



『関興寺』

関興寺の味噌なめたか…「なめたなめた」

～石打や知らずに参る関興寺 やわら仏は抜苦与楽を～
 石打にとっても心が落ち着く立派なお寺があります。
 最上山関興寺といい、臨済宗の鎌倉の円覚寺派に属しています。



いまから約 600 年前の室町時代、
 応永 17 年 (1410) に開創された禅寺です。
 当時、関東管領であった上杉憲顕公ゆかりの方が建立されたので
 上杉家からは格別の庇護をいただきました。

立派な由緒と格式のあるお寺。
 ご本尊は釈迦牟尼佛。



一見いたって普通の格式の高いお寺に見えますが
 このお寺のキャッチコピーが面白い！と話題になります。

国道の案内看板や門前の入り口に
 「味噌なめたかの寺」と書かれています。

これを見ただけでは「？」のはず。

越後の龍、上杉謙信が急死後の後継者争い
 「御館の乱」の折、この寺が戦火に巻き込まれた際に



大切な経典 大般若経 600 巻を味噌樽に埋めて焼失から守りました。

味噌は火に強い!

以来、この味噌をいただくものは、大般若経のご利益にあやかり、
福德が授かる・・・とすることで

「関興寺の味噌なめたか」

の言葉が生まれたと伝えられています。

ここまで聞くと納得です。

私が気になるのは上段の間の

「毒狼窟」(どくろうくつ)

と書かれた額。



「500 年間不世出といわれた、江戸時代の
(臨済宗中興の祖と呼ばれた禅僧) 白隠禅師が書かれた書です。

窟とは寺のこと、すなわち関興寺のことを表しています。

狼は修行僧。それも毒をもった狼です。

狼は、ただでさえ世間の人をよせつけません。

その上、毒をもった狼はさらに凄まじさを増して

近寄りたくなります。



関興寺では、そのような修行僧が想像を絶する
厳しい禅の修行を行っていたということを表す意味なのです。」

毒・・・がとても気に入りました!

厳しいことに耐えて、志を貫く...

まさに日本人の精神。サムライニッポン!

最近の日本人が忘れてしまっている大切な心。

是非、と言いたいところですが・・・根性のない私には

「無理」の二文字しか思いつかない。



この「毒狼窟」の意味を知り

往時の修行に思いを馳せて関興寺を参拝すると
またひと味違います。

修行が厳しいと言われたのは雲洞庵も同じ。

この地では

「雲洞庵の土踏んだか、 関興庵の味噌なめたか」
と昔から対で言われていた言葉。



この意味、奥深く考えると

諸国の修行僧たちが、 関興寺と雲洞庵の二大道場で
臨済宗と曹洞宗の禅を学ばねば一人前の禅僧とは言えぬ。

と言う事から、 修行僧が互いに言いあったものとも伝えられています。

石の上にも三年。

いいえ、修行僧は最低四年、真冬でも足袋も履かない、

暖房もない、食料もない、寝る暇もない、

日々規律正しい仏道の禅の世界で、

己を磨き、三務にいそしみ、修行修行の日々を送って、

黙々と・・・厳しい修行に務めてきたと

教えて頂いた事がありました。

ああ。すごいことです。

少しは見習おうとお寺で味噌を購入してなめておりますが

この味噌は美味しすぎて

きゅうりに豆腐にと、おつまみが引き立つばかりで

別の修行になっておりまして

いやはや・・・(汗)

でも、なんとなく、福德が授かったような

そんな豊かな気持ちにはなっています。

皆さんも、関興寺の味噌をなめにいらして下さい。

ご利益がありますように・・・。